

明石市(近畿ブロック)

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・ 江戸期:江戸時代初期から地元で親しまれている「魚の棚(うおんたな)」と呼ばれる商店街が存在。
- ・ 昭和～:企業進出、住宅開発に伴う阪神都市間からの人口流入などを受け、住宅都市・産業都市として成長。
- ・ 人口293,509人(平成27年国勢調査) 面積49.42Km²

【前計画の概要】

○明石駅前南地区の再開発により、公共施設や商業施設、居住空間などの複合施設を整備し、利便性を向上させる。また、あわせて、複合施設から周辺への立体横断施設を整備し、商店街区域内で様々なイベントの開催などのソフト施策を行うことにより、中心市街地全体への回遊性を向上させ、賑わいの再生を目指す。

(計画期間:平成22年11月～平成28年3月)

【中心市街地の変化】

- 都市福利施設利用は核事業が未完成ではあるが、完成後の駅前公共施設へのニーズは高まっている。
- 通行量は増加には転じていないが、イベントなどのソフト施策により通行量の減少を食い止めている状況にある。

【目指す中心市街地像】

**「海・食・時」のまちに更なる魅力を創造し
賑わいあふれるまちへ**

■前計画の目標

目標	指標	基準値(H21)	目標値(H27)	最新値(H27)
『便利で暮らしやすいまち』にする	駅至近にある都市福利施設の年間利用者数	435,691 (人/年)	478,000 (人/年)	462,470 (人/年)
『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする	歩行者・自転車通行量(休日・平日平均)	19,371 (人/日)	21,000 (人/日)	19,352 (人/日)

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H27)	目標値(H32)
『便利で暮らしやすいまち』にする	駅至近にある都市福利施設の年間利用者数	452,001 (人/年)	900,000 (人/年)
『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする	歩行者・自転車通行量(休日・平日平均)	16,737 (人/日)	20,000 (人/日)
	国道南側商店街区域における新規出店者数	12(店/年)	12(店/年) (60店/5年)

追加

『便利で暮らしやすいまち』にする

- 【主要事業】
- ・明石駅前南地区第一種市街地再開発事業
 - ・あかし市民図書館整備事業
 - ・本のまち明石関連事業
 - ・あかしこども広場整備事業
 - ・あかし総合窓口整備事業
- など

『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする

- 【主要事業】
- ・国道2号立体横断歩行者道路整備
 - ・あかし市民広場整備事業
 - ・明石まちなかバル事業
 - ・ほんまち三白館活用事業
 - ・明石海峡クルーズ事業
- など

明石市中心市街地活性化基本計画の事業概要

『便利で暮らしやすいまち』にする

①明石駅前南地区第一種市街地再開発事業

耐震性や有効活用に課題がある建築物を共同化し、低層には商業施設、中層には公共施設、高層の住宅棟を整備し、明石駅前と国道2号南地区とを結ぶ、利便性の高い明石のまちの顔となるような複合施設を整備する。



ビル完成イメージ

②あかし市民図書館整備事業・本のまち明石関連事業

明石公園内に設置されている図書館を、「本のまち」という新たな魅力を発信する拠点として駅前ビルに移転整備し、開館時間の延長や周辺の施設との連携などを行うことにより、利便性の向上を図る。



③あかしこども広場整備事業

再開発ビル内に子どもを中心とした多様な交流の創出や健全な居場所づくりを行い、まちを元気にするための拠点及び次世代の育成と子育て支援を促進するための施設を整備する。



ビル内公共施設イメージ

『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする

④国道2号立体横断歩行者道路整備

駅から駅前再開発ビルと商店街区域を安全に快適に回遊することができるよう国道2号上に立体横断歩行者デッキを整備する。



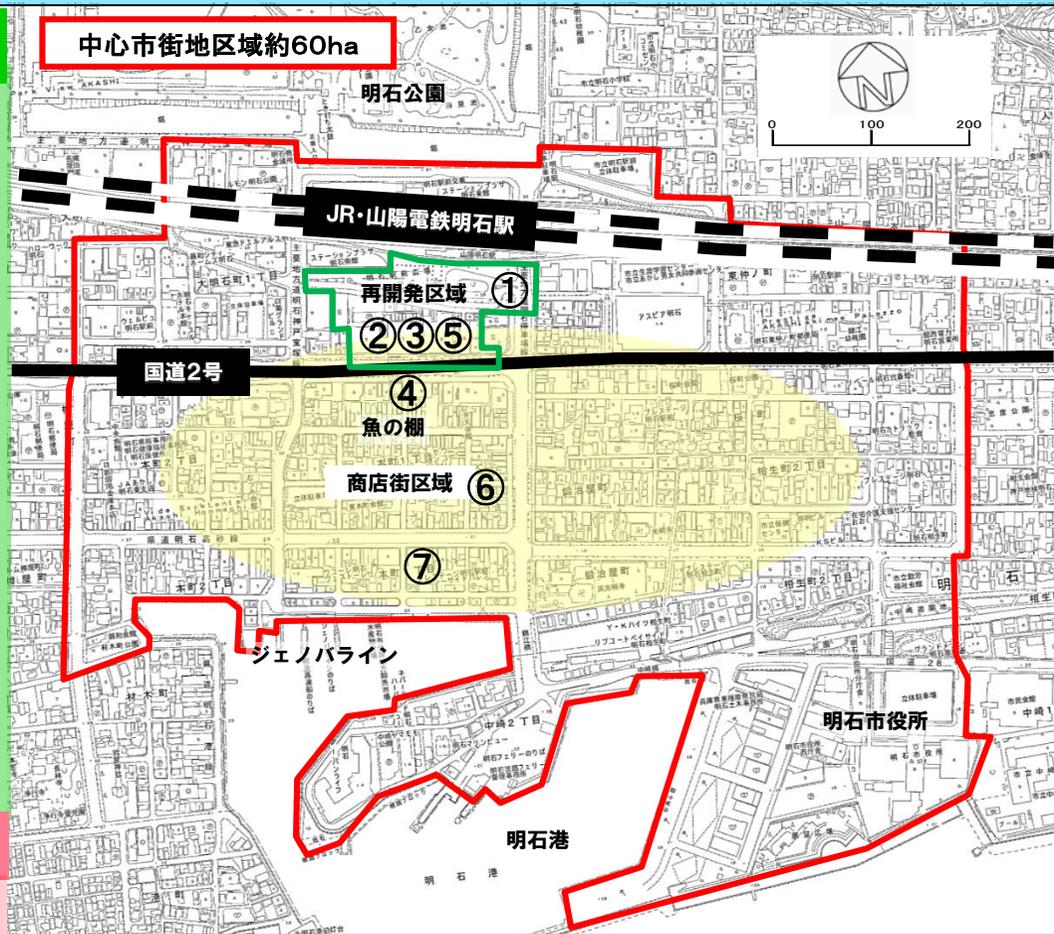
デッキ完成イメージ

⑤あかし市民広場整備事業

中心市街地の新たな集客拠点とするため、再開発ビル内の2階に市民が集い、賑わい、憩うことができる広場空間を創出し、イベントや情報発信により国道2号より南への人の流れをつくるポンプ施設として回遊性の向上に寄与させる。



広場イメージ



⑥明石まちなかバル事業

商店街が一体となり、各店連携しながら販売促進を兼ねた事業として、明石の魅力である「食」をターゲットに、飲食店を中心としたバル事業を行い、地域資源のPRを行う。



⑦ほんまち三白館活用事業

旧日活映画館を演劇場に改修し、大衆演劇場の公演や近隣店舗、地元や行政などと連携しながら中心市街地の南の拠点として利活用を行う。

